

花とみどいと笑顔

平成28年12月12日
上田市立北小学校
学校だより NO 11

2学期も最終盤に差し掛かり、1, 2学期における子どもたちの成長の様子や、3学期に向けた「子育て」の見通しを共有するための個別懇談会を行う時期となりました。職員会では、ご都合をつけてきていただいた保護者の皆さんが、「来てよかった」と思えるような懇談会にしよう、そのために、納得してもらえそうな成績物、具体物、エピソード等を用意して臨もう、と相談しました。不十分な面があるかもしれませんが、「この子の将来を本気で考えている者」同士として、今ついてきている力とこれからつきたい力を率直に語り合うことができるとよいと考えています。日々、「ふれあい、学び、遊ぶ」中で成長を続けている子どもたちの未来を語る時間にしていきたいと思えます。

よくふれあい

3年生は敬老園の方との交流活動、2年生は豆腐作りの中で、様々な方とのふれあいをしています。また、12月1日(木)には、「クラブ活動まとめの会」を行いました。

敬老園の皆さんとのふれあい

「交流に行くたびに、利用者さんが喜んでくださり、子どもたちも接し方が上手になっていくのが分かります。1回目は、初めて・・・ということもあり、ほとんどの子が緊張していました。どのように接していいのかわからず、困る子もいました。「あの時、こうすればよかったな。」「次は、こんな交流ができそうだな。」という反省を生かし、2回目の交流に臨みました。



2回目は、1回目の交流より“手応え”があったようで、「1回目より喜んでもらった!!」「前よりうまくいった!!」と嬉しそうな子どもたち・・・さまざまなことを学んだようです。それでも、「まだまだ、うまく話せなかった。」「声が小さくて、聞き取りにくいようだった。」・・・こうした課題にも気づけました。」

<3学年だより「元気っ子」No.32より>

3学年は、敬老園の皆さんと「ふれあって」います。1クラス3回ずつの訪問を通し、人への接し方、ふれあい方の力を伸ばしている児童の姿が多く見られました。最初の訪問では自分が知っている「元気なお年寄り」の姿を思い浮かべて臨み、そうではない方もいる中で「立ちすくんだ」子どももいたようです。しかし、そこから何とかしなくては、と動き出す姿に「子どもたちの素晴らしさを見た」と担任は語っていました。

豆腐作り、大成功

「今週の火曜日に1組からスタートした豆腐作りが、今日行った3組まで大成功に終えることができました。どのクラスも多くの保護者の方のお手伝いをいただかないとできない「豆腐作り」。お忙しい中、学校へ足を運んでいただき、ありがとうございました。今年度、多くの体験を生活科の授業でしてきた子どもたち。2学期の大きな取り組みはひとまずこれで終わることになります。「先生、3学期はどんなことをするの。」「生活科の授業、楽しみ。」と声をかけてくれる子どもたちのうれしそうな笑顔が印象に残ります。その子どもたちの笑顔を支えてくれている保護の方に感謝の気持ちです。」



<2学年だより「すこやか」No.33より>

2学年は、自分たちが作った大豆を使った豆腐作りを通し、「生活改善グループ上田」の方々、自分やお友だちのお母さんとふれあう機会をもちました。一生懸命育ててきた大豆を使っての豆腐作りには、「絶対成功させたい」、子どもたちなりの深い思い入れがあることでしょう。そんな自分たちの切実な思いを受けとめて、助けて支えてくれる大人とのふれあいは、正に信頼感や愛着につながっていくと思います。「一生懸命やっていたら、誰かが助けてくれる」と思える、「人好き」な子どもたちに育っていってくださることを期待しています。

クラブ活動まとめの会

クラブ活動まとめの会を行い、本年度のクラブ活動が全て終了しました。

会では、クラブの講師の方お一人お一人に講評をいただき、子どもたちの学びの姿を認めていただきました。今年は、昨年よりもクラブの数を2回増やし、負担も増えたかと思いますが、すでに来年度に向けた抱負を語る方もいらっしやって、大変ありがたく思いました。

学校長は、クラブ活動をきっかけとして、講師の方のお宅まで行って指導してもらい、ついでに食事を頂いて帰ってきた子どもの話を紹介しました。それは正に、クラブ活動が地域の方とのふれあいを実際に深めていることの証拠であると位置づけ、講師の方々に対する「おかげさま」の気持ちと、そんな関わりをもっと増やしたいとの思いを話しました。



よく遊び

水曜日の1時間目、全校で鬼ごっこ、「逃走中」を行いました。「学年関係なく遊ぶことに興味をもち、楽しく遊ぶことができる。遊びの幅を広げることができる。」といったことをねらいとして行いました。

全校鬼ごっこ「逃走中」

「職員が鬼(ハンター)で、捕まった児童は帽子を赤にして、校庭の指揮台前に集まります。一度つかまっても、5分おきに行われる『復活じゃんけん』でまた逃げられるので、子どもたちは安心していました。

感想を聞くと、『友だちや、違う学年の人と一緒に逃げられて楽しかった』『先生が本気で走ってきたので怖かった(笑)』などなどでした。これから『月に一回はやりたい!』という子もいました。

職員の体力が続く限り、これからも「子どもたちのために」走りまくりたいと思います！」



<4学年だより「なかま4」No.3 2より>

楽しく遊べましたが、そのことだけで終わりにしてしまっただけでは意味がありません。この後、子どもたちが、「お膳立て」のない、教師の指導のないところで、どう「面白そうだ、やってみよう」と自発的、自主的に遊びに取り組んでいくということが重要です。本校では遊びを、「子どもたちの生きる力の源、生活そのもの」と考えています。遊びを通して、「自己や友だちの尊厳に気づき、生きる意欲を育て、世界を切り拓いていく冒険心を養う」ことをねらっています。そんな遊びにつながっていくかどうか、そこを見守っていきたいと思います。

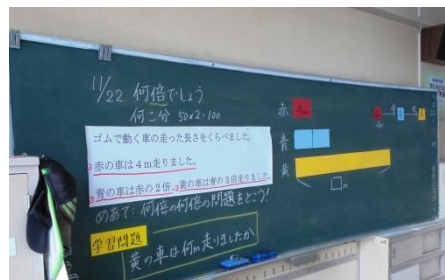
よく学び

授業改善に向けた取り組み

北小学校では、各学年、1年間のテーマを決めて、日々の授業の質をあげてい

くための研修、「授業改善」に向けた取り組みを行っています。

今年取組の中で問題になったことの一つに、「どうすれば子どもたちが自主的な追究ができるようになるか」ということがありました。子どもたちが、強制され、「やらされている学習」ではなく、自ら進んで学んでいくような学習にしていくことができれば、本校で考える学力＝「自ら学ぶ力の強さ」を高めることができないのではないかと考えたからです。



3年生 算数「何倍でしょう」の学習



授業研究会

この先、子どもたちに求められるのは、変化の激しい社会の中で、人とつながりながら、自立的に生き抜いていく力です。今までになかった新しい局面においても、自分で考えて生きていく力です。この先、数十年後には、科学技術の進歩とともに、今ある職業の半分はなくなっていくのではないかと言われています。そんな世の中でも生き抜いていくためには、自ら学んで対応していく力が必要とされているわけです。

これからも、授業改善に向けた取り組みは続けていきます。

「長野県中小企業家同友会」の方々と

12月6日（火）、長野県中小企業家同友会の方々18名が来校されて、本校の授業参観、校長講話、職員との懇談をする機会がありました。「学級経営」「学校経営」から、企業の経営との接点を見出し、そこに生かしていきたいとの思いからです。

分散会方式の懇談の中で、「企業の経営者としてどんな人材を必要としているか」という話題について話す場面がありました。

その中で出てきたのは、「嘘をつかない人」「素直に人の話を聞ける人」「責任をもって物事に関わる人」といった言葉でした。いわゆる「テスト学力」を要求していないということが、大変印象的でした。

「仕事に就けば、否応なく『学んでいくこと』はついてくる。大切なのは、自ら学ぼうとする力があるかどうかだ。失敗してもいいが、困るのは、誤魔化したり（嘘をついたり）、素直に人の話を聞いて、学ぼうとする姿勢がなかったりすることだ。」

正に、本校で大切に考えている、人とのつながりの中で生きていこうとする力をもった人材を欲

していることがわかりました。立場は異なる方々ですが、「人を育てる」という観点から話をした時、共通する考え方がたくさんあることがわかりました。

「我々は、社員の生活に責任をもっている。『首を切る＝見捨てる』ということと、『恥ずかしいこと』と認識してやっている。」

という話もありました。子どもたちを預かる身として、心したい言葉でした。



学校から

○個別懇談会に関連して

- ①学年だよりでもお願いをしましたが、懇談会の際、3学期、学年末等で転出の予定があるご家庭は、必ず担任までお知らせください。確定したことでなくても、予想される場合は担任に相談してください。
- ②個別懇談会中の、児童の生活の仕方について、学校も指導し、見回り等もしますが、家庭でもしっかり話し合ってください。時間の使い方と共に、店への出入り、留守家庭への出入り、帰宅時刻、交通ルール等、守るべきことを具体的に例示しながら指導することが大切だと思います。よろしくお願いします。

【文責 教頭 甘利尚之】